

令和4年度

# 白子川生物調査委託

## 報告書

令和4年9月

板橋区資源環境部環境政策課



# 目 次

1. 調査概要 .....	1
2. 調査結果 .....	3
3. 調査状況写真 .....	13
4. 捕獲状況及び主な水生生物写真 .....	16



## 1. 調査概要

### 1-1 調査目的

白子川の魚類及び底生動物の生息状況を把握することを目的とした。

### 1-2 調査地点及び調査日時

調査地点及び調査実施日は表1-1に、調査地点の位置は図1-1、1-2に示すとおりである。

表1-1 調査地点及び調査実施日

河川名	調査地点名	調査実施日
白子川	①東埼橋上流付近	2022/7/28(木) 9:00~10:45
	②白藤橋付近	2022/7/28(木) 11:45~15:30

注1) 7/28(火)の潮回り:小潮(晴海の干潮時間 10:57、23:20、満潮時間 4:05、17:50)

### 1-3 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集漁具及び努力量は表1-2に示すとおりである。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。

表1-2 採集漁具及び努力量

漁具名	寸法等	数量
投網	目合:26節 網丈:約2.8m	10打/30分
タモ網	目合:1目2mm 口径36×34cm	1人/1.5時間
カゴ網	外径寸法25cm×25cm×40cm	2個/1.5時間

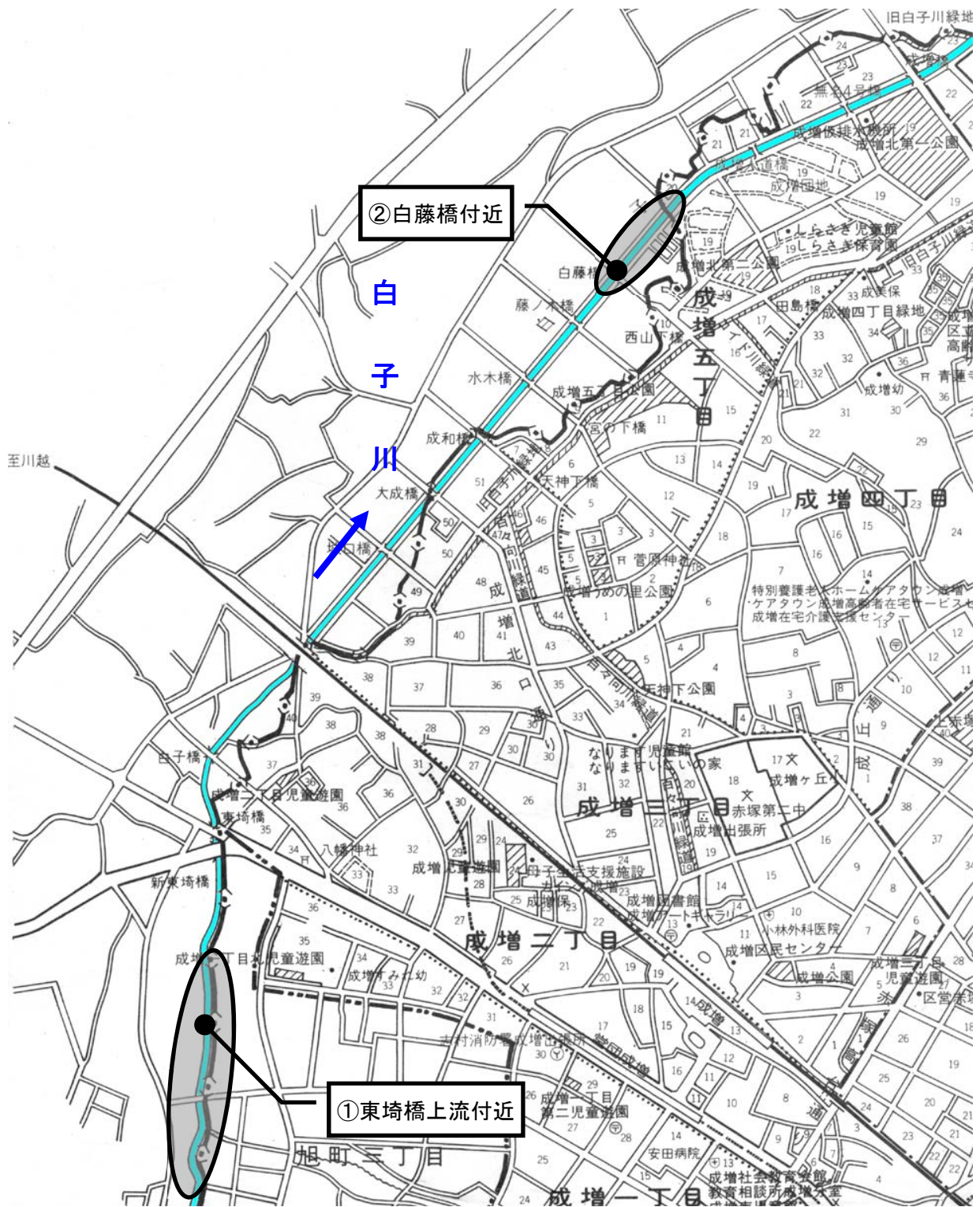


図1-2 白子川調査地点

## 2. 調査結果

### 2-1 調査地点の状況

各調査地点の調査時の水温、気温等は表2-1に示すとおりである。

#### (1) 白子川①東埼橋上流付近

東埼橋直下にS型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。

カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所を設置した。

#### (2) 白子川②白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約100mの位置に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。

カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所を設置した。

表2-1 調査時の気温・水温等

河川名	調査地点名	調査実施日	天候	気温(°C)	水温(°C)
白子川	①東埼橋上流付近	2022/7/28(木)	晴れ	32.0	25.0
	②白藤橋付近	2022/7/28(木)	晴れ	34.0	32.0

## 2-2 魚類調査結果

魚類調査結果は表2-2、表2-3に示すとおりである。

白子川の2地点全体では、ニホンウナギ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、アユ、ヌマチチブなど、4目6科14種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2020 区部」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するアブラハヤ、準絶滅危惧に該当するマルタ、ウキゴリ、ヌマチチブ、情報不足に該当するオイカワ、ドジョウ、シマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類が確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかった。

○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年  
絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの  
準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

○「東京都 RL2020 区部」:東京都レッドリスト(本土部)2020年版  
絶滅危惧ⅠB類(EN):ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの  
絶滅危惧Ⅱ類(VU):現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの  
準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの  
情報不足(DD):環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの

### ○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2017)。  
「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

各調査地点の確認状況は以下のとおりである。

### (1) 白子川①東埼橋上流付近

東埼橋上流付近で採捕した魚類は、アブラハヤ、ドジョウ、シマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリの計5種31個体が確認された。

礫やブロックの間などでドジョウ、シマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類、スミウキゴリが確認された。

### (2) 白子川②白藤橋付近

白藤橋付近で採捕した魚類は、ニホンウナギ、オイカワ、アブラハヤ、マルタ、モツゴ、アユ、ボラ、ウキゴリ、マハゼ、ヌマチチブの計10種、82個体が確認された。

ヌマチチブは礫等の下に多く生息していた。また、ニホンウナギは廃棄された鉄パイプの中で確認された。



表2-2 魚類調査結果

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RL 2020 区部	外来種	
				① 東埼玉橋 上流付近	② 白藤橋 付近					
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		4	4	EN	EN		
2	コイ目	コイ科	オイカワ		16	16		DD		
3			アブラハヤ	3	2	5		VU		
4			マルタ		3	3		NT		
5			モツゴ		1	1				
6			ドジョウ科	ドジョウ	2		2	NT	DD	
7	サケ目	アユ科	アユ		1	1				
8	スズキ目	ボラ科	ボラ		3	3				
9		ハゼ科	ウキゴリ		3	3		NT		
10			マハゼ		2	2				
11			ヌマチチブ		47	47		NT		
12			シマヨシノボリ	8		8		DD		
13			旧トウヨシノボリ類	5		5		DD		
14			スミウキゴリ	13		13				
計			4目	6科	14種	種類数計	5	10	14	2
				個体数計	31	82	113			

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2021」に従った。

表2-3 地点別魚類捕獲状況

地点		No.	種名	体長(mm)		個体数	備考
				最大	最小		
白子川	①東埼玉橋上流付近	1	アブラハヤ	33	16	3	
		2	ドジョウ	62	37	2	
		3	シマヨシノボリ	64	34	8	
		4	旧トウヨシノボリ類	55	31	5	
		5	スミウキゴリ	95	47	13	
	②白藤橋付近	1	ニホンウナギ	520	412	4	
		2	オイカワ	29	23	16	
		3	アブラハヤ	31	21	2	
		4	マルタ	61	46	3	
		5	モツゴ	26	-	1	
	6	アユ	68	-	1		
	7	ボラ	65	53	3		
	8	ウキゴリ	52	50	3		
	9	マハゼ	82	84	2		
	10	ヌマチチブ	72	23	47		

### 2-3 底生動物調査結果

底生動物調査結果は表2-4に示すとおりである。

白子川全体では、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、アメンボなど、13目25科29種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2020」に該当している種はなかったが、「東京都 RL2020 本土部」の留意種に該当する種として、モクズガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「緊急対策外来種」に該当するアメリカザリガニ、「その他の総合対策外来種」に該当するフロリダマミズヨコエビが確認された。

モクズガニは、生息環境として「東京湾沿岸に注ぐ大型河川の下流域から中流域に生息する。水から離れることはなく、土手などに穴居するほか、石の下に潜む。」とされ、また、生存に対する脅威や保全上の留意点として、「河口域の水質汚染の影響を受ける他、特定外来生物であるチュウゴクモクズガニ(シャンハイガニ)との競合が懸念される。」とされている。(「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」より抜粋)

アメリカザリガニは 1920 年代頃、米国から日本に食用ウシガエル養殖用の餌として持ち込まれ、湿地や水田など日本各地に広く分布する。雑食性で、さまざまな環境の動植物を摂食することから多くの生物に影響を及ぼす。

フロリダマミズヨコエビは北米原産で、国内では 1989 年に利根川支流にて初めて確認され、侵入後 20 年程度で日本各地に分布を拡大した。水槽で栽培されていた水草とともに野外に捨てられ、野性化した可能性が指摘されており、ペットショップで販売されているホテイアオイからも検出されている。本種の侵入地で多種のヨコエビが見られなくなる地域が報告されている。

.....  
○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020 年

○「東京都 RL2020 区部」:東京都レッドリスト(本土部)2020 年版)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)

緊急:緊急対策外来種。対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種

その他:総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種

未評価:未評価であるが国外外来種  
.....

各調査地点の確認状況は以下のとおりである。

(1) 白子川①東埼橋上流付近

東埼橋上流付近では、チリメンカニナ、カワリヌマエビ属、アメンボなど 23 種が、礫や砂利などの堆積物のある場所や護岸のくぼみなどで確認された。

また、「東京都 RL2020 区部」の留意種に該当するモクスガニ 5 個体、緊急対策外来種に指定されているアメリカザリガニ 7 個体、その他の総合対策外来種に指定されているフロリダマミズヨコエビ 2 個体が、石の間や下などで確認された。

(2) 白子川②白藤橋付近

白藤橋付近では、ヒロマキミズマイマイ、シマイシビル、ミズムシ(ワラジムシ目)、アメンボなど 18 種が、白藤橋の下流側にある砂利などが堆積して形成された寄り州や石の下などで確認された。

また、「東京都 RL2020 区部」の留意種に該当するモクスガニ 2 個体が石の間や下などで確認された。

表2-4 底生動物調査結果

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RL 2020 区部	外来種	
				① 東埼玉橋 上流 付近	② 白藤橋 付近					
1	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	26	1	27			未評価	
2	新生腹足目	カワニナ科	チリメンカワニナ	14		14				
3	汎有肺目	サカマキガイ科	サカマキガイ		1	1			未評価	
4		ヒラマキガイ科	ヒロマキミズマイマイ	1	2	3			未評価	
5	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ科	1		1				
6	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	5	2	7				
7		ナガレビル科	ナガレビル科		1	1				
8	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	2		2			その他	
9	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ	6	5	11				
10	エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	40	2	42				
11		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	7		7			緊急	
12		モクズガニ科	モクズガニ	5	2	7		留		
13	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	エラブタマダラカゲロウ	2	2	4				
14	(蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ		1	1				
15			サホコカゲロウ		8	8				
16			ウスイロフトヒゲコカゲロウ	1		1				
17			ウデマガリコカゲロウ	5	5	10				
18	カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	アメンボ	4	5	9				
19	トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	1		1				
20			コガタシマトビケラ属	7		7				
21		クダトビケラ科	クダトビケラ属		2	2				
22		ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	2	3	5				
23		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	1		1				
24		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ属		2	2				
25	ハエ目 (双翅目)	ガガンボ科	ガガンボ属	1		1				
26		ユスリカ科	ヒゲユスリカ属	4	10	14				
27		ブユ科	ツノマユブユ属	1		1				
28	コウチュウ目	ガムシ科	コモンシジミガムシ	1		1				
29	(鞘翅目)	ヒラタドROMシ科	マスタチビヒラタドROMシ	2	8	10				
計	13 目	25 科	29 種	種類数計	23	18	29	0	1	5
				個体数計	139	62	201			

## 2-4 調査結果のまとめ

### (1) 魚類の経年変化について

魚類の経年調査結果は表2-5に示すとおりである。

東崎橋上流付近の確認種は、経年的にスミウキゴリが多く、次いでドジョウなどが確認されている。調査水域は水深が浅く、瀬や淵、寄り州などの環境が少なく単調であるため、魚類にとっては生息環境が少ない地点で、確認種類数は、平成22年以前は9種、平成23年からは3~6種程度である。本年度はアブラハヤ、ドジョウ、スミウキゴリのほか、前回調査で確認されなかったシマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類が再び確認され、全体では5種の魚類が確認された。大きな変化はなく、例年通りの状況であった。

白藤橋付近では、平成22年以前は19種、平成23年からはコイ、マルタ、アユ、ボラ、ヌマチチブなど7~12種が確認されており、本年度も同様な種が確認され、全体では10種の魚類が確認された。この地点は砂泥や礫などの堆積があり、小規模ながら瀬、淵などの環境がある。廃棄された鉄パイプの中などにはニホンウナギやマハゼなどが確認されている。また、この地点は感潮域でニホンウナギ、マルタ、アユ、スズキ、ボラ、スミウキゴリ、マハゼ、ヌマチチブなど汽水域に生息する魚種を中心に確認種類の多い地点である。本年度もニホンウナギ、アユ、ボラ、マハゼ、ヌマチチブなど汽水域に生息する種が確認された。また、平成29年以外毎回到確認されていたコイは確認されなかったが、これまであまり確認されていなかったオイカワが、平成23年度以来、再び確認された。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、各調査地点とも河川構造が概ね単純な3面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

表 2-5 魚類の経年調査結果

白子川①東埼橋上流付近

No.	目名	科名	種名	H14~22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	環境省	東京都	外来種
1	コイ目	コイ科	フナ属(含金魚)	○														
2			オイカワ	○													DD	
3			アブラハヤ	○		3							1		3		VU	
4			モツゴ	○														
5			タモロコ	○			1		5									
6		ドジョウ科	ドジョウ	○	3	3	2	1	3	3	2	3	5	3	2	NT	DD	
7			ヒガシシマドジョウ*2										1	1			VU	
8			シマヨシノボリ				2		2	2	6	2	2		8		DD	
9			旧トウヨシノボリ類*3	○	2	2	4	5		2	8	3	3		5		DD	
10			ヨシノボリ属		1									1				
11	スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ	○	3	4	9	4	9	9	15	10	13	14	13			
12			ウキゴリ	○													NT	
	1目	2科	種類数合計	9	4	4	5	3	3	5	4	4	6	4	5	1	7	0

白子川②白藤橋付近

No.	目名	科名	種名	H14~22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R4	環境省	東京都	外来種
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ*1	○	4	1		1	2	1		1	1	1	4	EN	EN	
2	コイ目	コイ科	コイ	○	20<	20<	20<	20<	20<	20<		20<	20<	10				
3			フナ属(含金魚)				1											
4			ダニオ亜科	○														
5			オイカワ	○	3										16		DD	
6			アブラハヤ			1		2							2		VU	
7			マルタ	○	16	2	7	2	4		100<				3		NT	
8			モツゴ	○	1							5			1			
9			タモロコ	○		1						5						
10			ニゴイ		9									2			NT	
11	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ							1								
12	サケ目	アユ科	アユ	○	112	520	19	100<	100<	100<	4		100<	100<	1			
13	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○														特、重
14	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		1								4			VU	CR	
15		ボラ科	ボラ	○	13	1	86		9	5	100<	100<	6	8	3			
16	スズキ目	スズキ科	スズキ	○		1				5		3	1	3				
17		ハゼ科	スミウキゴリ	○		3	1	9	1		1	6						
18			ウキゴリ	○		5					1	2	1		3		NT	
19			ウキゴリ属	○														
20			マハゼ	○	3	2	4	1		2	5	100<	1	2	2			
21			旧トウヨシノボリ類*3	○				2				8					DD	
22			ヨシノボリ属	○														
23			ヌマチチブ	○	111	9	12	100<	100<	100<	100<	100<	100<	39	47		NT	
24			チチブ属	○														
25			カムルチー										1					
	31目	9科	種類数合計	19	11	12	8	9	7	8	11	8	9	8	10	2	9	1

○:過去調査において出現の記録があり。 H23年以降の数値は確認個体数

\*1)過年度調査ではウナギとして記載あり

\*2)過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

\*3)トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2021」に従った。過年度調査ではトウヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類として記載あり

環境省:「環境省 RL2020」:環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧

東京都:「東京都 RL2020 区部」:東京都レッドリスト(本土部)2020年版

CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)

特:特定外来生物:外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重:重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2021」に従った。

## (2) 底生動物による生物多様性について

生物多様性を評価する定量的な方法の一つとして、種の多様度指数がある。ここでは、平成 24 年から令和 4 年までの底生動物の調査結果を基に、各地点の多様度指数を算出した。(表 2-6、図 2-1 参照)

多様性を示す指数として、シャノン・ウィナーの多様度指数があり、式は以下に示すとおりである。

$$H' = - \sum_{i=1}^S P_i \log_2 P_i = - \sum_{i=1}^S \frac{n_i}{N} \log_2 \frac{n_i}{N} \quad 0 \leq H'$$

S, 種数;  $n_i$ ,  $i$  番目の種の個体数; N, 全個体数

この指数は種数が多いほど、かつ各種の均等度が高いほど、高い数値になり、ある種だけが集中して出現すると小さくなる傾向がある。

平成 24 年から令和 4 年までの過去 10 年間の底生動物の多様度指数は、東埼橋上流付近は 1.83 ~ 3.53、白藤橋は 1.52 ~ 3.78 の範囲で推移している。

各年別にみると、平成 26 年以降減少傾向にあったが、令和元年以降上昇傾向にある。

調査地点別にみると、平成 25 年から平成 30 年の間は、東埼橋は多様性指数が減少傾向にあったが、平成 30 年度以降は増加している。白藤橋の多様度指数は令和 26 年に突出しているものの他年次はあまり変動がなかったが、令和 2 年と令和 4 年で急激な増加傾向にある。

三ヶ年移動平均でみると、各地点と平成 26 年から平成 30 年まで概ね減少傾向にあったが、令和元年以降は増加傾向にある。白藤橋は概ね 2.0 で推移していた状況であったが令和 2 年以降増加傾向で、東埼橋上流の多様度指数に近づいている。

底生動物の種類数、個体数、これらを基に算出する多様度指数は、魚類と同様、その主な変動の要因としては、各調査地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、ゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の底生動物が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も底生動物相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

表2-6 底生動物の多様度指数の推移

調査地点	項目	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和4年
白子川 ①東埼橋上流付近	種類数	23	14	22	20	12	19	14	10	22	23
	個体数	142	156	119	86	48	114	54	40	160	139
	多様度指数	1.83	3.43	3.53	3.34	2.94	2.94	2.32	2.54	2.88	3.51
白子川 ②白藤橋付近	種類数	4	5	17	4	5	7	6	3	8	18
	個体数	5	9	50	6	7	31	12	5	20	62
	多様度指数	2.06	1.92	3.67	1.79	2.13	2.28	2.36	1.52	2.57	3.78

注) 個体数：ヨワカイメンは群体のため、個体数に加算せず  
 多様度指数：シャノン・ウィナーの多様度指数

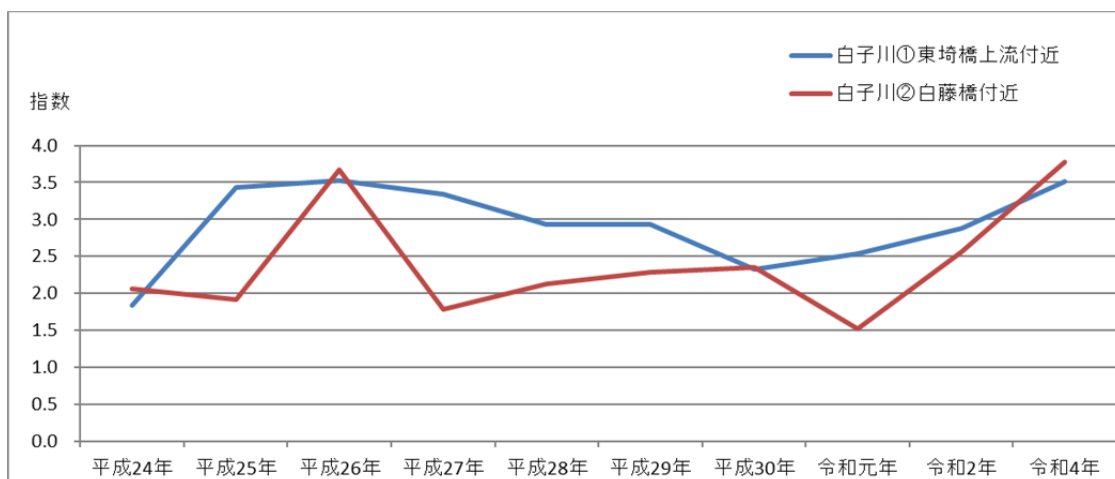


図2-1(1) 底生動物の多様度指数の推移(各年)

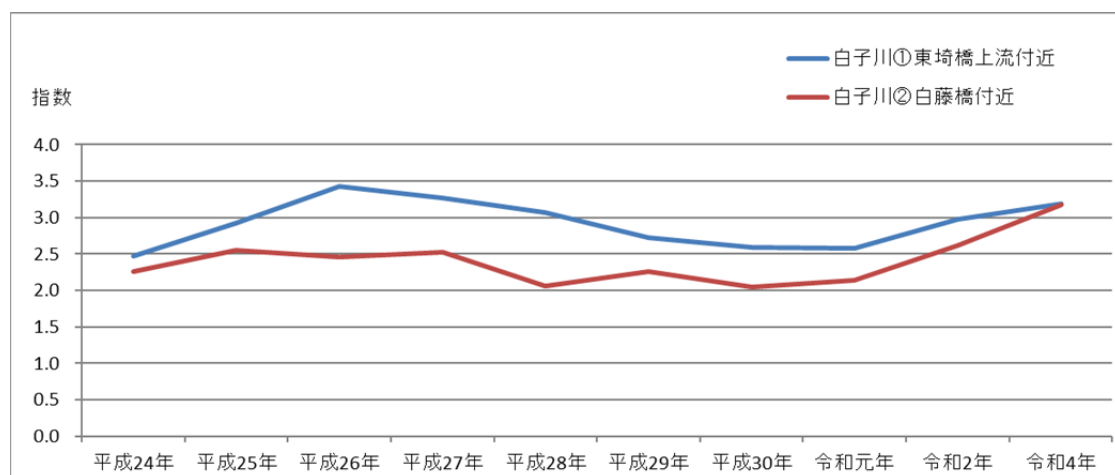


図2-1(2) 底生動物の多様度指数の推移(三ヶ年移動平均)



### 3.調査状況写真



白子川 ①東埼橋上流付近  
子安橋上より上流方向



白子川 ①東埼橋上流付近  
子安橋上より下流方向



白子川 ①東埼橋上流付近  
投網



白子川 ①東埼橋上流付近  
タモ網



白子川 ①東埼橋上流付近  
カゴ網



白子川 ②白藤橋付近  
白藤橋上より上流方向



白子川 ②白藤橋付近  
白藤橋上より下流方向



白子川 ②白藤橋付近  
投網



白子川 ②白藤橋付近  
タモ網



白子川 ②白藤橋付近  
カゴ網

## 4.捕獲状況

及び

主な水生生物写真



白子川 ①東埼橋上流付近  
魚類採捕状況



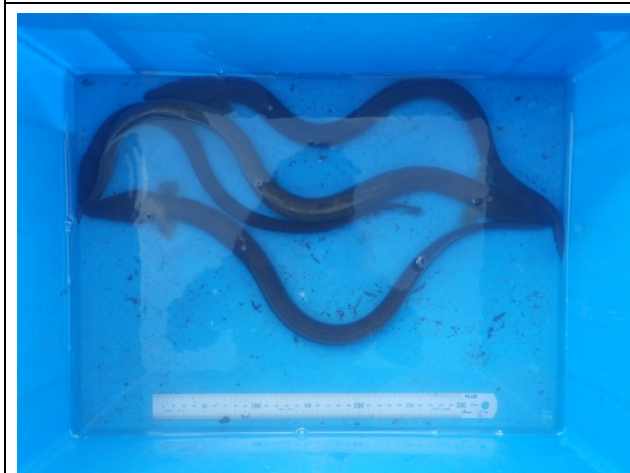
白子川 ①東埼橋上流付近  
底生動物採捕状況









白子川 ②白藤橋付近  
魚類採捕状況



白子川 ②白藤橋付近  
底生動物採捕状況



白子川 ②白藤橋付近  
魚類採捕状況

	
<p>ニホンウナギ (白藤橋)</p>	<p>オイカワ (白藤橋)</p>
	
<p>アブラハヤ (東埼橋・白藤橋)</p>	<p>マルタ (白藤橋)</p>
	
<p>モツゴ (白藤橋)</p>	<p>ドジョウ (東埼橋)</p>



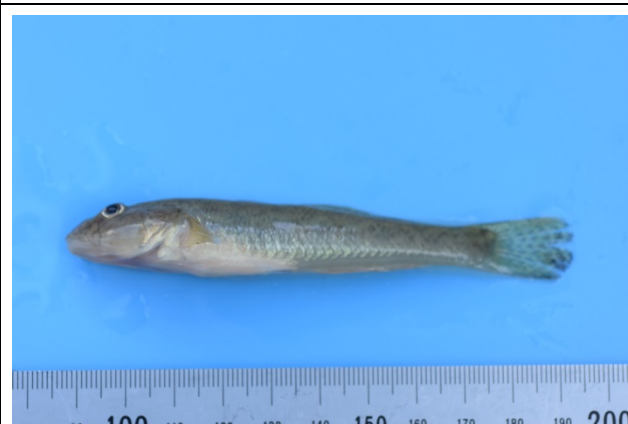
アユ  
(白藤橋)



ボラ  
(白藤橋)



ウキゴリ  
(白藤橋)



マハゼ  
(白藤橋)



ヌマチチブ  
(白藤橋)



シマヨシノボリ  
(東埼橋)



旧トウヨシノボリ類  
(東埼橋)



スミウキゴリ  
(東埼橋)



チリメンカワニナ  
(東埼橋)



カワリヌマエビ属  
(東埼橋・白藤橋)



アメリカザリガニ  
(東埼橋)



モクスガニ  
(東埼橋・白藤橋)



令和4年度 白子川生物調査委託 報告書

---

2022年9月

調査受託者 株式会社 アズテック

〒231-0064 神奈川県横浜市中区野毛町3丁目131-1

電話:045-250-5666 FAX:045-251-8201